

令和6年度 延岡市立緑ヶ丘小学校 学校評価書

評価段階	4 期待以上	3 ほぼ期待通り	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
------	--------	----------	------------	----------

学校経営ビジョン
『Have to』から『Want to』へを緑ヶ丘小全員で目指すキーワードにし、自分が働く意味、学ぶ意味を、自他との対話により見出し、『わくわく幸動』できる緑ヶ丘小を目指す。

1 めざす姿

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果 ○成果 ●課題 ◎対応策	自己評価	外部評価	外部評価コメント
めざす学校像	①緑ヶ丘小学校は、主体的で笑顔いっぱいの活気ある学校ですか。	○夏季・冬季休業を利用して、職員で資料室等の整理・整頓を行い、美化に努めることができた。 ○どの学年も地域の関係機関やボランティアの方に協力をいただき、体験的な活動の充実を図ることができた。 ●学級花壇の手入れ、清掃用品の点検等、継続的・計画的な取組と見届けが必要である。 ●トイレの破損、故障、臭いなどが気になるとの意見や、教室の室温・湿度の適切な管理への要望が寄せられている。 ◎全校一斉緑化活動を年間計画に月に一度設定し、意識を高めるとともに、校内の花壇の縮小等、見直しを図る。 ◎施設の管理と速やかな修繕対策を行う。	3.3	3.8	○児童数は少ないものの、先生方・保護者ともに活気があり非常に意欲的に活動されていると感じる。
	②緑ヶ丘小学校は、環境が整備され、機能的で美しい学校ですか。		3.2	3.8	
	③緑ヶ丘小学校は、信頼される学校ですか。		3.3	3.8	
めざす児童像	④児童は、自ら学び実践する子に育ってきていますか。	○心のアンケートや教育相談を通して、いじめの兆候を見逃さない迅速な対応とその解決を図るよう努めた。また、スクールカウンセラー（以下S C）やスクールソーシャルワーカー（以下S S W）と連携した児童・保護者との面談を積極的に実施し、児童に寄り添う対応に努めた。 ●児童の学びの主体性については評価が伸び悩んでいる。授業について、児童が受け身の様子が多いとの指摘もあがっている。思考・表現する学び合いの面白さを実感する単元づくりに向けた授業改善を図る必要がある。 ◎授業研究に一層深まりのある校内研修を行うとともに、積極的に外部の授業力向上研修に参加し、今、教師に求められている専門的スキルを高める。 ◎児童に様々なチャレンジの場や活躍の場を与える教育課程を工夫し、児童の自己肯定感を育む。	3.1	3.1	○いつも子どもたちのために熱心な指導がありがたい。
	⑤児童は、心豊かで思いやりのある子に育ってきていますか。		3.2	3.6	
	⑥児童は、健康でたくましい身体に育ってきていますか。		3.3	3.8	
めざす教師像	⑦本校の教師は児童理解に努め、服務規律やコンプライアンス遵守を図り、教育公務員として信頼できると思いますか。	○春・夏・冬のコンプライアンス研修や職員会での呼びかけを通して、コンプライアンス遵守の啓発を行うとともに、リスクマネジメントの推進を具現化するよう努めた。	3.3	4.0	○多様化する児童や保護者への対応に懸命に取り組んでいる。

	⑧本校の教師は、積極的に学び続ける姿勢をもち、指導力向上に努めていると思いますか。	○市や県主催の研修等、自ら選択し受講する姿勢が多く見られる。 ●職員の日々の言動が、児童にどのように受け止められるかを常に客観的に振り返り、児童の立場に立った教育者としての言動を磨き続ける必要がある。	3.3	3.8	
	⑨本校の教師は、学校組織の一員として、学校経営方針の推進のために前向きかつ柔軟に実践できていると思いますか。	○働き方改革の推進を図ることを通して、質の高い教育活動の実現に向け、教材研究の時間確保や外部研修の積極的参加によるアップデートを意識して行う。	3.3	3.8	

2 学力向上部

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果 ○成果 ●課題 ◎対応策	自己評価	外部評価	外部評価コメント
学 ぶ 力 の 育 成	⑩学校は、「わかる・できる」授業のために、基礎・基本の定着に努め、確かな学力の育成を実現していますか。	○主題研究を通した職員相互の学び合いが見られ、授業改善の意識が高まっている。 ○児童の作文を新聞や県文集中に掲載し、多くの児童の作品が掲載されたことは児童の自己肯定感の向上に繋がっている。 ○図書ボランティアの方による定期的な読み聞かせの支援をいただき、様々な本に出会う機会を得ることができた。	3.2	3.6	○視覚支援などの工夫が必要な児童への手立てをお願いしたい。
	⑪学校は、児童の表現活動の充実を図り、児童の主体性や自己肯定感を高めるよう工夫していますか。	●授業中、発言しない児童が多いことや、作文の機会が少ないことについて意見が寄せられている。 ●読書の少なさについて指摘がある。また、読書の苦手な児童に対する読書指導への要望もいただいている。	3.2	3.6	○図書の貸し出しを促すために、掲示物を活用した手立てなどあるとよい。図書ボランティアの力も借りて活動できるとよいのでは。
	⑫学校は、読書活動の充実を図ることを通して、児童の豊かな人間性を養うよう努めていますか。	○日頃から学校に関わってくださっている地域の方に、授業の表現活動の時間を観ていただくなど、児童が他者から観られ、認められる場を積極的に設ける。 ◎県が推進する「ひなたの学び※」をテーマとした参観日を設定し、学力向上に繋がる授業づくりや学習環境の整備、定着の方法について積極的な発信に努める。 ◎対話的に学びを深める学習法を全校的に浸透させるための実践的研鑽に努める。 ◎「全校一斉朝の読書」の徹底、本の紹介や読み聞かせ等を推進する。	3.3	3.8	

※「ひなたの学び」…ひとりひとりが問いをもち、なかまとなって学び合い、高めよう深く考える力」

3 生活指導部

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果 ○成果 ●課題 ◎対応策	自己評価	外部評価	外部評価コメント
主 体 性 や 社 会 性 ・	⑬学校は、児童が安心して学校生活が送れるよう、いじめの未然防止・早期解決や4つの「あ」※を通して、よりよい人間関係づくりに努め、自己肯定感を高める取組を工夫していますか。	○「いのちの教育週間」では、全学年が実態に応じたテーマで外部講師による授業を実施し、いのちの尊さ、人権尊重の精神について意識を高めることができた。 ○第6学年と運営委員会を中心に、いじめ根絶のための啓発的取組を行うとともに「宮崎県いじめ問題子供サミット」への積極的参加の体験を通して、全校的にいじめ根絶への意識が高まっている。	3.2	3.6	○「家庭教育」にもスポットを当てていただき、学校まかせになりがちな風潮を変えていただきたい。

豊かな心の育成	⑭学校は、児童が自他の命の尊さや命を守る安全な過ごし方を考えて行動することができるように努めていますか。	<p>● 4つの「あ」の意識付けに課題が残る。また、言語環境の乱れを危惧する意見もある。</p> <p>● 清掃指導、花壇の整備、各教室や廊下の整理・整頓の徹底を全学年で日常化していく必要がある。</p> <p>◎ あいさつの励行、学校生活における言語環境の整備（名前のくん・さん付け）等を全職員、全学年に定着させるための児童主体の取組を継続的に企画し続ける。また、全校集会や放送等の活用を図る。</p> <p>◎ 命を守る対策として、学校における不審者対策においても一層推進し、万が一の車両での保護者引き渡しを想定した訓練を実施し、周知を図る。</p>	3.3	3.8	
---------	--	---	-----	-----	--

※4つの「あ」…「あいさつ、歩き方、あとしまつ、ありがとう」

4 健康指導部

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果 ○成果 ●課題 ◎対応策	自己評価	外部評価	外部評価コメント
健康・安全管理能力の育成	⑮学校は、体育の授業や行事、体力テストの活用を通して体を動かす楽しさを味わわせ、児童の自己肯定感を高めるように努めていますか。	<p>○ 猛暑日の熱中症対策として、気温の危険指数を設定・情報発信し、昼休みの児童の過ごし方を調整した。ルールを守り、安全に過ごすことができた。</p> <p>○ 体力テスト、なわとび週間、持久走週間、昼休みの全校遊び等の取組を通して各学期ごとに児童の体力向上を図った。</p>	3.4	3.8	<p>○ 体育の授業時間だけでは体力づくりも厳しいので、昼休み時間や朝の時間の積極的な工夫を期待したい。</p> <p>○ 給食中は、コロナ禍を過ぎた今、互いに向き合って楽しく会食する時間を過ごせるとよい。</p>
	⑯学校は、児童が自分の心や体に関心を持ち、健康生活を主体的に実践することができるよう努めていますか。	<p>○ S C、養護教諭が連携して学校保健委員会を開き、S Cの周知と心のスキルトレーニングについて講話を行った。また、児童の心身の健康についての定期的取組（心と身体の健康チェック）を開始し、きめ細やかな対応の手立てとした。</p>	3.2	3.6	
	⑰学校は、給食指導、食育指導の工夫に努め、児童の望ましい食習慣と感謝の心を育てていますか。	<p>● 給食時間における会食の時間の必要性について指摘をいただいている。</p> <p>● 各教室の適正な空調管理（温度・湿度）の要望が寄せられている。</p> <p>◎ 体力テストの結果を有効活用し、課題の分析や目標の設定等に生かして体育の授業の導入等で継続的に取り組む。</p> <p>◎ 校時程における給食の時間設定の見直しを図り、会食マナーの指導も積極的に行えるようにする。</p>	3.4	3.6	

5 教務研修部 家庭・地域との連携、キャリア教育への取組

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果 ○成果 ●課題 ◎対応策	自己評価	外部評価	外部評価コメント
家庭・地域との	⑱学校は、社会に開かれた教育課程の充実を図り、保護者や地域と連携しながら児童の主体性を育むよう努めていますか。	<p>○ コスモスの種まき、みどりっ子コンサート、運動会ばんば踊り等、地域や保護者の方の多数の参加をいただくとともに、どの学年も、年間を通じて地域の方との学習を積極的に実施し、豊かな学びや交流の体験を得ることができた。昼休みの保護者ボランティアによる音楽室開放を実施し、貴重な表現の場になっている。</p>	3.4	4.0	○ 地域との連携・情報発信など積極的に行われ、学校の様子を知る機会が増えた。
	⑲学校は、児童が将来の夢や目標について		3.1	3.6	

連携・キャリア教育への取組	て希望をもって考えることができるよう、キャリア教育の充実に努めていますか。	○ウルスラ高校生の運動会準備支援、工業高校生の家庭科ミシン支援など、校区内の高校生による支援をいただくことができた。			○児童クラブとの連携がよくとれており、一日を通して児童を見守る協力的な先生方の姿勢も聞くことができる。
	㊤学校は保護者・地域の相談や願いに応えるよう努めるとともに、情報の発信や取組の説明等に努めていますか。	○学校だより、学校ホームページ、学級だよりでの情報発信を通して、教育活動の様子や意義等を発信することができた。 ●キャリア教育に関する評価に伸びが見られない。校内でのキャリアパスポートの活用や、教育課程におけるキャリア教育の位置付け等、情報発信が必要である。 ○学校ホームページ（教育活動等の情報発信機能）、マチコミメール（連絡網機能）のそれぞれのツール活用の目的を年度当初に明確に説明しておく。 ○参観日において、参観授業のテーマ（ひなたの学び、人権教育、キャリア教育等）を設定して取り組むことで、本校の目指す教育への情報発信の場とする。 ○学校運営協議会委員を中心に全職員との熟議を図り、地域の方と職員とが連携した継続的な教育活動を推進する。	3.3	4.0	○児童クラブとの連携がよくとれており、一日を通して児童を見守る協力的な先生方の姿勢も聞くことができる。 ○地域との連携を大切に考えてくださり、学校との距離が近くなっている。 ○今後も地域の一員として緑ヶ丘小の児童を見守りたい ○積極的に学校へ足を運び、児童と先生方との日常の様子にも触れたい。